

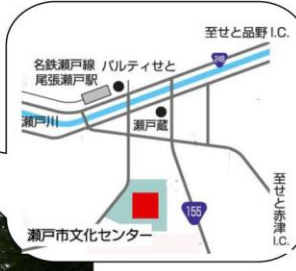
**「保存する会」主催の行事です。
みなさまおそろいでご参加ください！**

ピースフェスティバル in せと 2024 戦争体験を語り継ぐ会第3回

広島から瀬戸へ！

被爆体験伝承者 (船津晶子さん) 講演会
一人が人に伝える、それが平和につながる！

日時 **6月29日(土) 13:30~16:00**
会場 **瀬戸市文化センター 12会議室**
参加費 **300円** (大学生以下は無料)



体験者 兒玉光雄さん

伝承者 船津晶子さん

1932年(昭和7年)生まれ。広島県立広島第一中学校一年(12歳)の時、爆心からわずか800m余りの木造校舎内で被爆。被爆当時登校していた一年生三百余名のうち、急性原爆症を克服して奇跡的に2年生に復学できたのは19人だった。しかしそのそれから次々と放射線障害と思われる病で倒れ、80歳を超えることができたのはわずか2名だった。その生かされたものも「重複癌」と闘う日々であった・・・。
(88歳でご逝去)

つたえる
ヒーローヒロシマ!

広島市西区在住。元保育士、被爆二世。
広島平和記念資料館・平和記念公園のピースボランティアガイド。
2013年に広島市の被爆体験伝承者の養成2期生として講話を続ける。2015年から被爆体験継承者として活動を始め、同時に4名の仲間と共に「被爆体験を継承する会」を立ち上げた。これまで被爆者の生の声を聴く機会を作るために証言会を企画したりドキュメンタリー映画の上映会などを行ってきた。



瀬戸地下
軍需工場
跡を保存
する会

会報

NO.181
2024年
5月10日
瀬戸市船町64-1
瀬戸市職労組事務所
0561-84-4760
fax 84-4767
郵便振替口座番号
00820-9-105120

連絡先

事務局
梅野
090-3837-7050
寺脇
0572-23-5899
fax 同上
携帯
090-6575-4370
Eメール
tera-m@ob.aitai.ne.jp



ありがとうございます
ごございました！
2024年度
会費およびカンパを頂いた方
瀬戸市

名古屋市	三宅訓子さん	2000円
	鈴木宏さん	2000円
	作道瑞絵さん	2000円
	熊谷達也さん	2000円
	桐山久美子さん	1000円
	宇佐見美智代さん	2000円
多治見市	佐々木英夫さん	1000円
知立市	古橋和佳さん	3000円
	山田富久さん	3000円
常滑市	早川博康さん	1000円
	岩田正王さん	1000円
2024年5月24日現在	141名 (+4-2)	

ご訂正
前号で春日井市在住の大矢昭夫さんを名古屋市と誤記しました。申し訳ありません。お詫びして訂正します。

これからの「戦争体験を語り継ぐ会」
いずれも 文化センター12会議室
5月25日(土) 引揚者
6月29日(土) 広島から瀬戸へ
7月20日(土) 沖繩に連帯
8月24日(土) 原水禁世界大会
13時30分~16時00分

あつみ半島(田原市)戦跡見学会報告

■渥美半島の主な戦争遺跡図

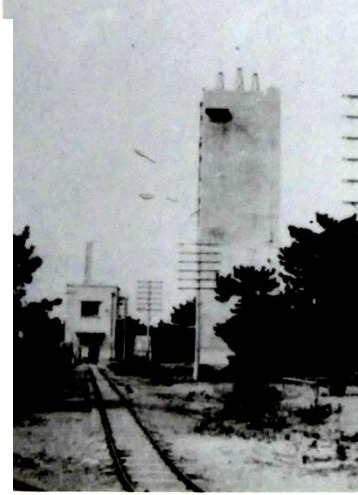
※この図は、「愛知県史 別冊 文化財1 建造物・史跡」などをもとに作成したものです。



●伊良湖射場中核部施設の配置略図(昭和初期)

3月31日(日)春の日差しがまぶしい快晴の日。参加者22名であつみ半島戦跡見学会を行いました。案内は愛知県平和遺族会会長で前豊橋空襲を記録する会代表の安間慎さん。詳細な資料だけでなく、なんども現地を足を運んでいただき、綿密な計画と、バスの中では「岬めぐり」の合唱で場を盛り上げていただくなど、安間さんのお陰で有意義で楽しい見学会になりました。

行程は瀬戸市駅前を8時30に出発し11時に安間さんとの「めつくんハウス」上図①で合流し今回の一番の見学地である「伊良湖射場」上図②に到着しました。射場正門を過ぎると、地元では「六階建と呼ばれる昭



建設当時の気象塔(右)と無線電信所(左)

和5(1930)年に建設された高さ19mの気象塔兼展望塔が迫力で見えます。付近には無線電信所跡もあります。ここは大砲の弾道や風速・風向などの観測を行っていました。

渥美半島の北西端②にある射場から大砲を南西方向に射ち、その弾道や威力などを計測・記録して

(次頁に)

昭和初期頃の写真



②伊良湖射場・六階建て



無線電信所跡



射場入口の警戒哨舎跡に立つ安間さん



③伊良湖灯台



④伊良湖岬村集落移転関連碑
上「伊良湖村墳墓旧跡の地」碑
下「願はしきものは平和なり」碑



ごくろうさまでした!
藤村「椰子の実」碑の前で



参加者の感想

去る3月31日(日)晴天の日に朝8時30分愛環瀬戸市駅バロー前に若者も含め20名が集合し、いざ愛知県田原市戦跡巡りに出発しました。途中愛大豊橋で榎村愛子愛大教授、田原市道の駅で本日の案内人安間慎さんが同乗されました。

そこでわたしたちが行く目的地は田原市ですが、その半島は渥美半島です。安間さんからこのギャップは何故生まれたのでしょうか?と質問されました。答えはトヨタ自動車田原工場が建設されたからだとなり、大いに失望致しました。「金」で「地名」を買収したのか。失望したのは事実ですが、戦跡巡りは大変有意義な取り組みでありました。わたしたち瀬戸市も瀬戸地下軍需工場跡をどうにかして「瀬戸市指定文化財」に「格」挙げして頂き、市の力で整備し地域の市民の方達と「保存」する運動へと進めて行かねばならないと改めて決意致しました。戦跡地を巡ってみると、夫々「何と」愚かな「施設」ばかりであり、自然を破壊し、歴史と地域コミュニティーを破壊(村の強制移住)し、かの地で敗戦間近、米軍・連合軍の「上陸」に備え毎日訓練をしていたのかと、想像するにつけ、戦力が格段の差がある「事」さえ本当に知らない中で、訓練していたのか、信じられませんでした。

ふり返って現在、核抑止力に象徴される様に、「敵」より高度・破壊力のある軍事力を装備する事が「今」こそ大切だとして、軍拡競争に邁進している事が如何に愚かな事であるのか、わたしたちは思い知る「時」です。毎日ガザで「餓死」する子どもたちが「存在」している事を「異常」であるとして、即時「停戦」せよと「声」を大にして叫ぶ「時」です。戦績跡地は人類の愚かな「記憶」・「記録」として自治体の協力を得て大切に「保存」すべきだと痛感しました。案内人をこころよく引き受けて頂いた安間先生有難うございました。

瀬戸市在住 木戸泰幸

事務局 寺脇

この射場は1905年9月〜06年3月にかけて伊良湖岬村全戸(114戸729人)が強制移転させられました。柳田国男の「願はしきものは平和なり」④の碑や墓地旧跡の碑があります。伊良湖灯台も砲弾の關係で海岸近くに建てられたということです。渥美半島の南岸には本土決戦用の陣地跡もあり、そして柳田国男の話聞いて藤村が作った「椰子の実」の碑など盛りだくさんの一日でした。有意義な一日を演出していただいた安間慎さんには紙面をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。



⑤和地一色(米軍上陸阻止陣地)
左は上図左の
火薬庫跡内部

第3回愛航研究会

「愛知航空機と紫電改」



講演者の木村美穂
さん（左）と本田
基さん（右）



4月13日（土）瀬戸市文化センター12会議室で第3回愛航研究会「愛知航空機と紫電改」が行われました。講師は愛航研究会の木村さんと本田さんで、参加者は東は東京から西は姫路からと全国から15名の方が集まりました。参加者の方が作られた精巧な紫電・紫電改の模型も展示されました（上図）。

講演の前半では「紫電」から「紫電改」に至る過程を解説していただきましたが、複雑な構造をもつ「紫電」をより簡単な構造にすることにより軽量化性能アップにした「紫電改」を作った技術者の苦労を垣間見ました。また後半では、今までの「紫電改」の製造は北陸工場でのみ行う予定だと考えていました。瀬戸工場（とくに200地区）でも計画していたこと、陸軍が計画に関係していたことなどを知り大変、勉強になりました。講師の木村さん、本田さん、ありがとうございました。（寺脇）

紫電改生産計画

愛知		英徳	
瀬戸	福井	英徳分散	英徳分散
N1J	N1J	N1J	N1J
五〇	五〇	一〇〇	一〇〇
協力工場ヲ母体トス	協力工場ヲ母体トス	近郊分散	近郊分散
三國	本地ヶ原	瀧及伊保	瀧及伊保
	任地下工事中		任地下工事中

「紫電改」と瀬戸工場の関係を示す資料 (本田さんからのメールより)


私の調べた限りですが、

1) 愛知航空機「紫電改」生産計画
添付資料（左表ならび左頁表）から、永徳（分散）、瀬戸、北陸で、それぞれ「紫電改」の最終組立・試験飛行まで行うという、かなりおおがかりな計画です。瀬戸では完成した「紫電改」を、陸軍の本地ヶ原飛行場を使用（試験飛行、空輸）が予定され、使用交渉が不成立の場合は、「街道ヲ利用スル滑走路ノ急速建設」とあり、道路を滑走路化する計画が立てられていました。（資料中、N1Jは、紫電改の略符号N1K2-Jと考えられます）

2) 瀬戸工場
各資料から比較、検討すると、瀬戸工場は
0地区 10000平方m
100地区 10000平方m
200地区 10440平方m（組立覆土工場 6440、整備用覆土工場 4000）
他、地上施設（工場転用 7700、宿舎 30000）
という形と考えられ、戦略爆撃調査団資料から終戦時は、0地区、100地区は一応完成、200地区は建設着手前に終戦を迎えた事になり、
また、「計画では同類の疎開地の開発が街の西部にある飛行場の北方に必要であった。飛行機の最終組立のために後期の開発が計画され、南方の飛行場が試験飛行のために改良された。」（証言集の和訳）と、200地区と本地ヶ原飛行場を指すと考えられます。

3) 全体の流れの考察
当時の航空機工場では、完成部分から一部作業開始というのが普通で、0地区、100地区もそういう形だと考えられますが、「紫電改」ではなく、「彗星」の部品（もしくはアッセンブリ）の製作でした。その理由を考えれば、

理由1、「紫電改」の転換生産開始の遅れ
通常、転換生産は転換元（川西）から供給された部品の組み立て（ノックダウン）から始め、徐々に自社製の部品へ切り替えるのですが、愛知と同時期に「紫電改」転換生産を指示された二十一空廠では、いつまでも供給されないで、勝手に船に積んでもっていったというエピソードがあり、（次頁へ）

一 愛知縣 瀬戸市	順急 飛行場 建設地 區社名	川西がそれらの他社へ「紫電改」を供給可能なほど、生産能力に余裕は無かったと考えられます。 また、「紫電改」生産用の治具は、海軍艦政本部から供給される計画でしたが、治具の供給が遅れた可能性も考えられそうです。
愛知縣 瀬戸市	疎開機種	理由2、「彗星」生産打ち切りから続行へ変更 愛知航空機へ「紫電改」生産命令が出された頃の計画では、重点機種以外は生産縮小打ち切りという方向で考えられていて 攻撃機、爆撃機は「銀河」が重点機種とされ、「彗星」「流星」は生産打ち切りという予定でした。その後、本土決戦で特攻機が必要となった事や、「銀河」の一部を夜戦に回すため、「彗星」「流星」の生産打ち切りは撤回、生産続行と計画が変更します。
現在建設中ノ 飛行場ニ對シテ 附近ノ原及 附近ノ街路 トモテ 利用スルハ 便利ナリ	飛行場 備成要	昭和20年度下半期(S20.10~S21.3)は、「彗星四三型」は月産50機という計画であり、尾崎技師の手帳(S20.7.19)では、瀬戸で「紫電改」の生産を立ち上げ、永徳で「彗星」を月産50機という予定だった事が伺えます、
完成 着目	完成 着目	4) まとめ 瀬戸工場は「紫電改」生産のため、最終組立まで行う疎開工場として計画され、附属飛行場として、陸軍の本地ヶ原飛行場が予定されていた0地区、100地区で一部作業開始可能な段階になっても、「紫電改」生産(予定では6月から)の準備が整わず、生産続行が指示された「彗星」の部品、アッセンブリの製作作業を開始する事となった 200地区完成までの中間的な措置として、伊保が原に搬入して最終組立という体制がとられ、その段階で終戦を迎えた と、いう形だと考えています。 以上 本田 基
備考	備考	 <p>参加者のみなさん</p>

200地区と本地ヶ原飛行場利用計画を示す証言(日東工業社長回顧録より)

苦難

実は、横山駅の隣に求めた土地に倉庫と事務所を建てた。そして、事務所の二階を新居にした。やがて太平洋戦争が進んで鈴木製陶所を「日東航空工業所」と名称変更した。平和産業から愛知航空機(現愛知機械工業)の下請け工場になった。愛知航空の専属工場になるまでのいきさつは次のようである。

昭和十九年の春のある日、愛知航空の野口正秋(※現豊田中央研究所代表取締役)が家を訪ねてきた。名刺には「疎開工場建設委員長」とあった。米軍の空襲に備え、海軍の飛行機の生産工場を名古屋市港区から瀬戸方面の山中へ移そうというわけだ。

「外してもらっては困りますが、軍は山の中にトンネルを掘って、そこに飛行機の部品をつくる。また組立は本地ヶ原あたりで覆土工場を建設してやる計画です。ついでには、お宅の事務所を企画と工事連綿の拠点にしたいのでお借りできないでしょうか」

覆土工場といいますが、「陸軍の演習場の近くで地面を掘ります。そこに木枠を斜め、その上に渡した板に土を覆います。偽装ですよ。こうしておいて、下で飛行機の組立をやる」
そのころ、瀬戸高女は海軍施設隊の宿舎になっていた。それに、瀬戸の山は粘土質で崩れにくい。疎開のため

の条件はそろっていたのだ。こうして、海軍は瀬戸から春日井方面へかけての山中に六〇〇台の機械を持ち込んだ。覆土工場での組立は完成寸前に終戦となったが……。

一年して愛知航空の事務所は瀬戸の商工会議所へ移る。こうして、日東航空工業所は飛行機のネジを生産するようになった。まもなく終戦。日本中のだれもがそうであるように、実もまたゼロからの出発となった。だが、運がついていた。敗戦間際に愛知航空は一八万円の小切手をくれた。そして、戦後、工場を引き揚げる時にプレス溶接機、板金用の機械など多数を払い下げてくれたのだ。実は一八万円のことと当時の新鋭機械を使い、いち早く再建に立ち上がる。ことができた。選びに選んだ土地に愛知航空機が来て幸運の種をまいていくのだ。

昭和二十年九月から鍋、釜、すき、くわ、電熱器と売れるものは何でもつた。

加藤陽一(日東工業初代社長)
「創業一代P114」より
※昭和50年ごろか。

6月9日愛知時計を襲った空襲③

堀口秋彦 記

愛知時計電機のご出身で愛知時計にお詳しい堀口秋彦さんから、ご自身で調査記録された「20・6・9 熱田空襲の概要」令和5年5月記の手記を頂いたので連載で掲載します。勤務された会社の記録として、大変貴重な資料です。

堀口さんは、昭和9年生まれ、戦後に愛知時計電機に入社、瑞穂工場の設計部門で、時計機器や防衛庁関連機器を担当。愛知時計ならびに、そこで生産された過去の製品・遺構について「産業遺産」として調査記録されています。事務局 寺脇

20・6・9 熱田空襲の概要③

前号よりつづく

証言E 東海航空機職員（18歳）

兄が愛知時計電機に徴用工で帰宅しないので被爆した工場へ向かう。白鳥橋に近づくにつれ、道路は10mの穴、土砂が礫の泥土の中に、爆死者の手や足、身体の一部、半死半生で苦しむ人達。凄惨、悲惨きわまりない状況！工場内は死骸と重傷の怪我人がうごめいている。建屋は被の手が上がり延々と燃えている。手足のない人、腰から下がらない人、頭が

割れて脳が出ている人、顔が焼けただれた死骸、幾ら探しても兄を見つけないことは出来なかった。重傷怪我人は死を宣告され、苦しそうに唸っているのに、死骸の中へ入れられたのを白鳥国民学校で見た。腹の皮が破れて腸がはみ出ている全身火傷の人、頭のない死体、頭・顔が裂けてどす黒い死体、片手、片足の人、首だけの死骸、髪がちぢれ目を覆うほどの悲惨な死体の収容所。助け出す人も血眼になって走り廻っている。

「うらみの6・9」毎日新聞社の取材記事

熱田空襲は、犠牲者の数に於て愛知県下最大の空襲で死者の中に学徒動員、徴用工員が多い。日本空襲工場史上最大の悲劇であった。愛知時計電機本社工場21000人のうち、徴用工員13000人、学徒動員5600人、愛知航空機・アツタ発動機工場と機体第四工作所の従業員8500人の内、徴用工員2700人、学徒動員1950人、兵士220人、女子挺身隊も含め、3工場の従業員は総計2万9500人である。公表の従業員数は2万4500人からすると5000人も増加しているのは工場周辺の民間の人達も含まれていると考えられる。

爆死者は2800余、重軽傷者3500人は3工場と周辺住民も含まれている。爆死2800の内、工場1800、民間住民1000と見做される。学徒動員の死者は159人で中京商業生徒が79人含まれて、中京商業の犠牲は県

下最大で、豊川海軍工廠被爆の豊川市立高等女学校生徒死者59人を抜いている。ちなみに豊川海軍工廠（機関銃、弾丸、弾薬包、双眼鏡、測距儀、潜望鏡、羅針儀などの製造、従業員56400名）の被爆死者数は2544人で内、学徒の死者は452人であった。熱田空襲の爆死者があいまいなのは4000ポンド（1.8トン）の強大な爆弾により人間の身体全部が粉々に散った事によってまとまった死骸としての確認が出来ないことにある。未だに行方不明者として171人の遺体発見が出来なく、遺族の方達が愛知時計電機本社へ問合せが最近まで続いていた。研究館地下室へ避難した人達は木端微塵で白鳥橋の下へ避難した人達もコンクリートの破片と一緒に水泥に手足が見つかったりも誰の人か分からず性別不明で帽子、防空頭巾の名札で死者数を推定している。はかない思いで被爆処理は進められた。

証言F

被爆死者の収容は研究館から西方3km先にある愛知時計電機明德工場（射撃盤、制動機、増力機などの製造）や工場周辺のお寺などであった。日比野遺体収容所の死骸の山の中から、奇跡的にも戦後のパチンコ王の正村竹一氏は発見され生還した。重傷者のけが人は熱田神宮西側の白鳥国民学校をはじめ名古屋大学病院等へ運ばれたが、介護、手当も十分に受けられなくて死んでいった人達が多い。

証言G

女子挺身隊であった人は、あらゆる破片（ガラス・鉄片・砂利など）が体に数えきれないほど突き刺さり、モンペは切り裂かれ、顔は血とほこりで真黒。重傷者として鉄道病院に収容され6月9日から7月30日まで外科入院した。

証言H

名古屋市立第2商業生徒であった井川光雄氏（現86歳）は、よく劇の破片が背中に入り、除去できたが今も尻内の破片は残留して生活も老人になって歩行も困難であると述べられている。

防衛隊

被爆者の死体は、国土防衛隊など、工場従業員や多くの人達の協力により、死骸をトラックに積み込んで庄内川河川敷の塵芥焼却場で茶毘の火葬となった。幾日も、いくにちも火葬の煙は昇っていた。

総儀式

昭和20年7月13日、名古屋市内の建中寺で官民合同葬儀が執行された。以降、熱田空襲の慰霊祭は、毎年6月9日、愛知時計電機本社工場西入口北側の殉職慰霊地蔵碑の前で供養読経、追善回向式典と東区の建中寺、および平和公園内の殉職者之墓前で執行される。

次号へつづく

戦跡見学会での証言



愛知時計電機本社前殉職慰霊地蔵碑と藤本さん（手前 中央）2010年3月

65年目の愛知航空機

藤本仁美さん（八幡台）

当時金城女子経済科2年生（17歳）で、愛知航空機熱田発動機製作所へ学徒動員され、電車通りに近い会計課に配置されていた。学徒用の防空壕は一番町の方にあった。

6月9日空襲。構内の水が溜まっている防空壕へ逃げ込んで、第一波は過ぎた。爆風で防空壕は毀れ、背中から爆風を受けた私は、服が破れただけだったが、正面から受けた人たちの顔は黒く割れていた。会計課へ戻るとまた「空襲警報が出ている」との声。私は裸足で、防空ずきを頭

に載せたまま電車道へ飛び出した。まわりは真つ暗でザーと爆弾落下の音、耳を押さえて電車道へ伏せた。「死ぬ」と思った。二波、三波を過ぎ、一番町の防空壕へ逃げた。家が近い椋山高女の友人が、もんぺや履き物を貸してくれ、私はそのまま、熱田から市電で家へ帰った。

途中、白鳥橋を通ると、橋の上は死屍累々だった。しかし、もう一人ひとりの人間だという感情は湧かなかった。

あとで聞くと、会計課に残った椋山高女や中京商業の人たちは、みな亡くなったという。第二波のあと、逃げ出そうとする人たちに、椋山高女の人「足がない」と叫んだが、何も出来ないのを見捨てて逃げたとの話もきいた。

1年先輩は「女子挺身隊」で豊川工廠で多数死んでいる。

戦後、爆撃で逃げるが防空壕が一杯で入れない夢を見る事が多く、この地へは来ることが出来なかった。

しかし最近、小学校の教員をしている孫が、子どもたちに戦争の話をしてやりたいと言い、私も再び「むなし青春」がないように、伝えなければいけないと思うようになったので、見学会に参加し、65年ぶりにこの地へ来た。

（2010年3月、春の戦争遺跡見学会で）

写真で観る晴嵐 28号機修復の全貌 第14話

愛知航空機研究家・渡辺哲国

14. 折畳展張機構

①格納・折畳機構

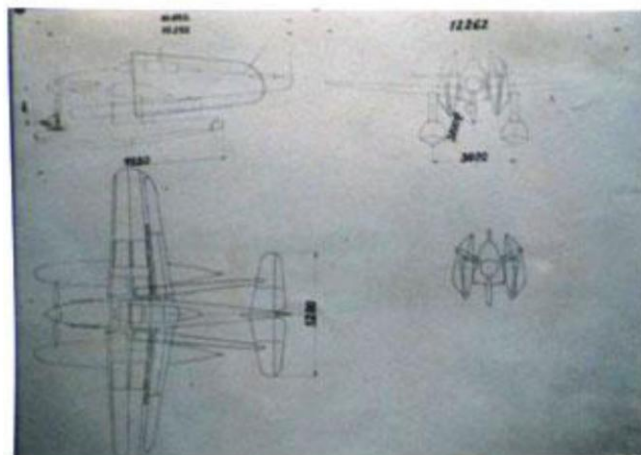
アツタ32型(AE1P)発動機に装着するプロペラの直径は3.2mあり、機体の折畳寸法をこの範囲に収めれば、格納筒との隙間は半径で15cmあり、格納可能と推定された。浮舟は嵌脱(脱着)式にすれば問題はなく、水平、垂直尾翼の折畳も機構的に容易である。ただし、長さが12m余もある主翼をどう折畳んだら直径3.5mの円筒形に入るか?これが一番のネック課題となり、さすがの尾崎技師も悩んで眠れない夜が続いた。ある日、安楽末雄技師は子供のおもちゃの飛行機からヒントを得て、主翼を付根から90度回転させ、胴体と平行に後側に折畳むと云うアイデアを思いつき研究会に提案した。検討の結果、実用性ありと判断され、1/10木型模型が作られ、検証の上、航空本部、空技廠に提案し構想案として同意を得た。この新機構の概要は、胴体内に装備された主翼回転油圧筒にて主桁を回転中心として90度回転させ、その後主翼折畳油圧筒を作動させ、胴体側面部から後方に折畳む機構である(展張はこの逆となる)。作動油圧源は母艦にあり可撓ゴム管で機体に供給され、機体にある操作用切換弁で操作された。また各油圧筒は可撓ゴム管にて接続されていた。しかし主翼には補助翼や修正舵、親子式フラップ、燃料タンク、ピトー管、水中舵操作機構があり、操縦索、電線、各種パイプなども90度回転後に後方に曲がるため特殊な機構が必要となり、この案の実用化には更に多くの知恵と時間が必要であった。

②浮舟の嵌脱機構

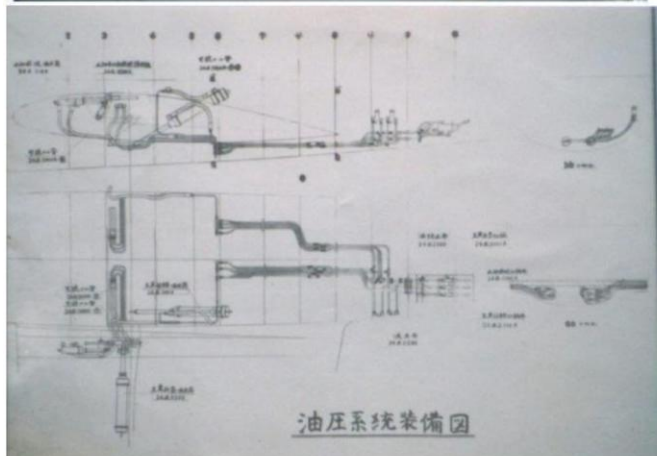
浮舟は脚柱で主翼に固定されるため、脚柱の上下で迅速に嵌脱(組立・分解)可能な新機構が必要とされた。飛行準備時間を20分以内とする為には迅速かつ確かな作業のできる機構が不可欠であり、研究会ではネジ式、ユンカーズ式など、いろいろなアイデアが出され検討された。その中で椎名敏夫技師が考案した大砲の尾栓方式(特殊ネジを90度回転させ1動作でロック)の採用により解決の目処がたった。結合個所は脚柱の上下で各4箇所、合計16箇所とされた。なお、浮舟追加により、空力バラン

ス上、垂直尾翼面積が不足することが判明し、上部が増積され、折畳及び嵌脱機構が追加された。またこれにより、昇降舵と方向舵のヒンジ位置が接近し強度上不利となるため見直しが行われた。無論、浮舟、垂直尾翼上部とも、飛行中の投棄は不可能である。晴嵐にはこの類の事実無根の虚述が多く、修復チームは困惑した。この件については別章で述べたい。

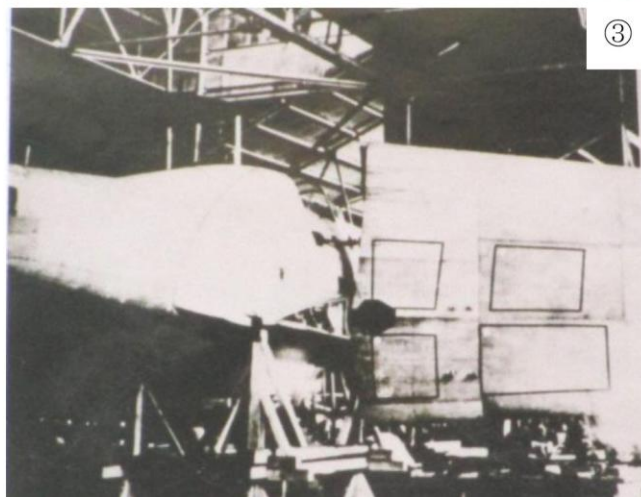
次号へつづく



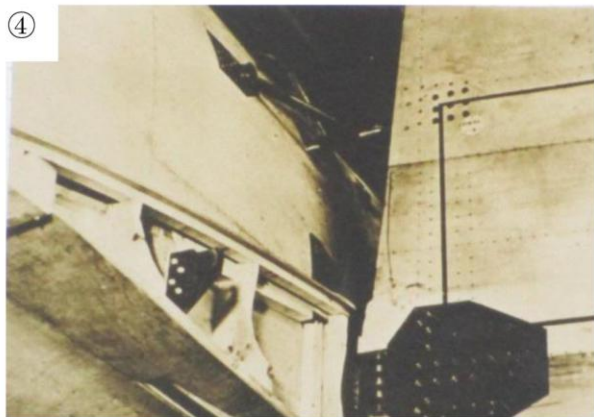
①折畳展張図



②折畳展張油圧系統装備図



③

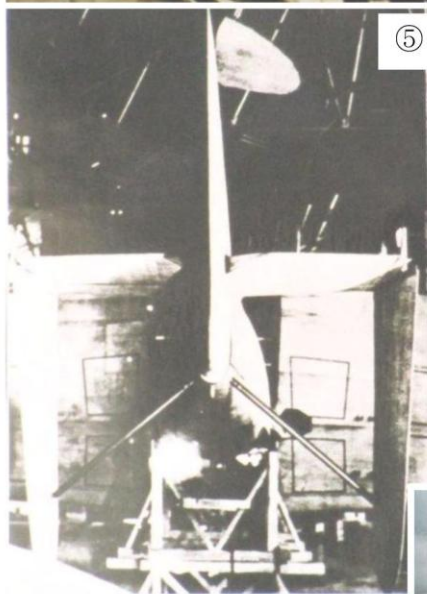


④



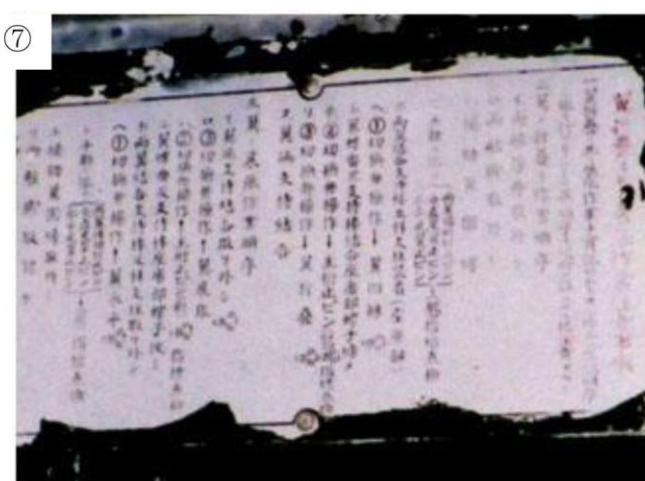
⑥

⑥、⑦翼折畳展張作業注意事項の説明



⑤

③、④、⑤ 実物大木型での折畳展張機構審査



⑦

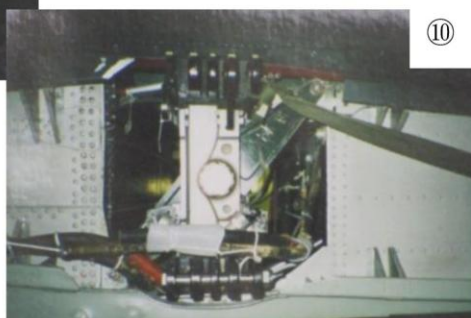


⑧



⑨

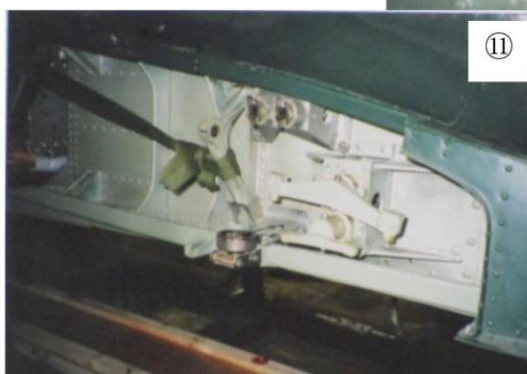
⑧、⑨、⑩、⑪ 主翼付根の折畳展張機構



⑩



⑫



⑪

⑫、⑬尾部翼の手動折畳展張機構



⑬

みなさまからのメッセージ

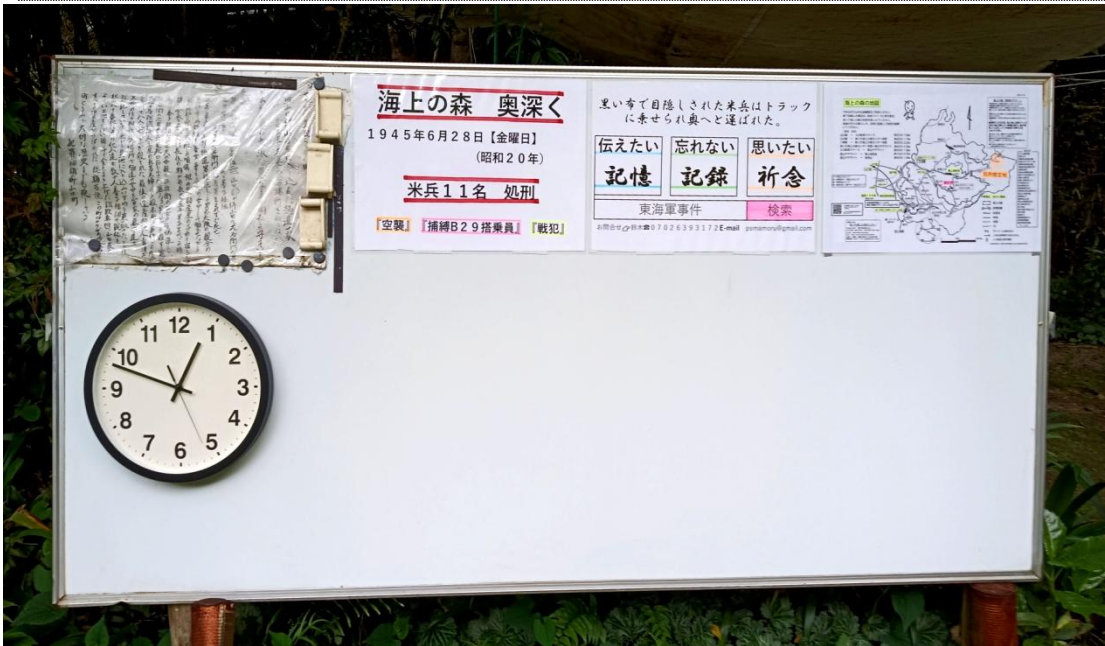
貴重な情報を送っていただきました。ありがとうございました！

瀬戸地下軍需工場跡を保存する会 寺脇様 (4月30日 Eメール)

いつもお世話になります。『海上の森』斬首(東海軍事件) 掲示物を 地権者様のご協力を得て設置しています。入口駐車場から里山サテライトへ向かって 徒歩20分ほどの道沿いです。この連休前半 多くのハイカーの皆さんにはご存知でなかったことに驚かれつつ関心をもって見ていただけています。会員の皆様にも広くお知らせいただければ幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。

※掲示板 (下の写真) 左上の掲示物は 私とは別です。

鈴木守 (4月30日 Eメール)



海上(かいしよ)の森入口駐車場の設置された掲示板に米軍捕虜斬首事件の掲示物を鈴木守さんが設置されました。瀬戸市内の貴重な歴史の事実を知っていただきたいですね。(寺脇)

編集後記

名古屋市河村たかし市長は22日、市が条例で定めた「なごや平和の日」の意義を問われ、「(戦争で) 死んでいった人たちに思いを寄せないといけない」と述べたうえで、「祖国のために命を捨てるのは高度な道徳的行為だ」と発言しました。

私は岐阜県在住なので、テレビや新聞で直接名古屋市長の弁を聞いていないがネットで新聞記事を見ると、はじめのところは異議はないが、後半の部分に唖然としました。まるで教育勅語の世界。それに空襲の中、「祖国のために死ぬんだ」と降り注ぐ焼夷弾に立ち向かった人がいるのだろうか。東邦高校をはじめ多くの若者の純粋な気持ちを戦意高揚に繋げないでほしい。
2024, 5, 8 (T)

寺脇 正治 様

おはようございます。

雨の日が続きます。撮影に出かけられないため次の計画を練っています。

小学生の時に見た、瑞浪の地下壕が大きな課題です。

さて、瀬戸地下軍需工場付近のトイレ遺構についてです。写真を奈良の屯鶴峯を研究している西嶋さんにお送りしたところ大変驚かれ、仲間と盛り上がりおられるようです。また、学芸員の伊藤厚史さんにもお知らせしました。以下、伊藤さんのご感想です。

【伊藤さん感想】

「小使用の溝だと思います。丘の上だと、溜める便槽は、丘の下へ下水管でおろした先にあり、汲み取りが便利なおとところにあると思います。大八車なので運び出すので。そうでなければ、わきに方形の便槽があると思います。大使用もあると思いますが。また場所を教えてください。」とのことです。

3月にも屯鶴峯地下壕へ行かれるそうです。瀬戸へは雨宮大尉の碑と合わせて再訪したいとおもっています。まずは報告まで。よろしくお祈りします。

西田 敦

2024年2月23日